

国語総合

番 号	
氏 名	

問題一 次の文を読み、後の設問に答えなさい。

ゴリラといっしょに暮らしてみて私が教わったことは、互いの存在を認め合っている時間の大切さである。野生のゴリラは長い間人間に追いつて来られなかった。私たちに強い敵意をもっている。 A、シンボウ強く接近すれば、いつかは敵意を解き、いっしょに居ることを許してくれる。 1、
 が経過するにしたいが、信頼関係が増すからである。(中略)

人間も実はつい最近まで、自分だけの時間にそれほど固執していなかったのではないだろうか。 B、木や紙でつくられた家に住んできた日本人は、隣人の息遣いから完全に隔絶することはできず、常にだれかと分かち合う時間のなかで暮らしてきた。それが原因で、うっとうしくなったり、ストレスを高めたりすることがあったと思う。 2、 C、戦後に高度経済成長をとげた日本人は、他人に邪魔されずに自分だけで使える時間をひたすら追い求めた。

D、効率化や経済化の観点から時間を定義する必要が生じた。
E、時間はコストであり、金に換算できるという考え方である。 4、 5

しかし、物資の流通や情報技術の高度化を通じて時間を節約した結果、せっかく得た自分だけの時間をも同じように効率化の対象にしてしまった。自分の欲求を最大限満たすために、効率的な過ごし方を考える。映画を見て、スポーツをカンセンし、ショッピングを楽しんで、ぜいたくな食事をする。自分で稼いだ金で、どれだけ自分がやりたいことが可能かを考える。でも、それは自分が節約した時間と同じ考え方なので、いつまでたっても満たされることがない。 F、
 自分の時間が増えれば増えるほど、孤独になって時間をもてあますようになる。

それは、そもそも人間がひとりで時間を使うようになっていらないからである。700万年の進化のカテイで、人間は高い共感力を手に入れた。他者の中に自分を見るようになり、他者の目で自分を定義するようになった。ひとりでも、親しい仲間のことを考えるし、隣人たちの喜怒哀楽に大きく影響される。ゴリラ以上に、人間は時間を他者と重ね合わせて生きているのである。仲間に自分の時間をさしだし、仲間からも時間をもらいながら、互酬性にもとづいた暮らしをイトナんできたのだ。幸福は仲間とともに感じるもので、信頼は金や言葉ではなく、ともに生きた時間によって強められるものだからである。

世界は今、多くの敵意に満ちており、孤独な人間が増えている。それは経済的な時間概念によってくりだされたものだ。それを社会的な時間に変えて、いのちをつなぐ時間をとりもどすことが必要ではないだろうか。ゴリラと同じように、敵意はともにいる時間によってカイシヨウできると思っただけである。 6

(山極寿一『ゴリラからの警告』―人間社会、ここがおかしい―毎日文庫、p82ff)

問一 傍線部あーおの漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- あ 固執 い 隔絶 う 換算 え 稼いだ お 喜怒哀楽

問二 傍線部かーこのカタカナを適当な漢字に直しなさい。

- か シンボウ き カンセン く カテイ け イトナ(んで) こ カイシヨウ

問三 文中のかつこAからFの中に次の中から適当な語句を補い、その番号で答えなさい。

- ① ぞうじ ② つまり ③ こがし ④ そればかりか ⑤ だからどうも ⑥ とりわけ

問四 傍線部1「それ」は、何を指すか、二十八字以内で示しなさい。

問五 傍線部2「する」の主語は何か、示しなさい。

問六 傍線部3「思う」の主語は何か、示しなさい。

問七 傍線部4「時間は」の語句は何か、分かりますく二十字以内で説明しなさい。

問八 傍線部5「考え方である」の主部は何か、二十字以内で示しなさい。

問九 傍線部6「つなぐ」という意味に最も近い文を次の中から選び、その番号で答えなさい。

① インターネットは今や世界をつなぐ道具となっている。

② 喧嘩別れをしていた二人がようやく手をつないだ。

③ あの二人は確かな信頼のきずなでつながれている。

④ 二点間の最短距離を直線でつなぐといいでしょう。

問十 本文全体に見出しを付けるとすれば、次の内どれが最も適当か、その番号で答えなさい。

① 幸せな時間を取り戻そう

② ゴリラから教わったこと

③ 時間を効率化と経済化の観点から考えないこと

④ 敵意を解消するには

問題二 次の各文には言葉の使い方に正しくないところがある。その部分に棒線を引き、正しい使い方に訂正しなさい。

① 私は、高校時代にスランプにかかった経験がある。

② 最近、日本では生涯スポーツということが取りざたされている。

③ 有名人にプライベートはない、と日本のマスコミ界では思われているらしい。

④ 日本は、大谷選手や伊藤選手、水泳やサッカーなど多くの種目で国際的によく頑張っている。

⑤ 医学が進歩するにつれて寿命が延びていった。しかし高齢化が進んだ。

⑥ 毎日のように老人が交通事故で死去しています。

⑦ インターネットを通してその情報が散乱している。

⑧ 欠席が多かったので、留年の危険が迫っている。

⑨ 持ち家率に関して日本はかなり多い方である。

⑩ 日本のお家芸でもある柔道が取得したメダルは、斎藤選手の一個だけだった。